

⑪たてとい伸縮部材の施工

注意



必ず守る



禁止

- たてとい伸縮を逃がすため、必ず排水管カバーを取り付ける

伸縮でたてとい、たてとい部材が破損し水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

- たてといを排水管(埋設管)に接着剤で固定しない

- 接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する

水漏れにより、建物を傷めるおそれがあります。

1 排水管への接続(排水管カバーの取り付け)

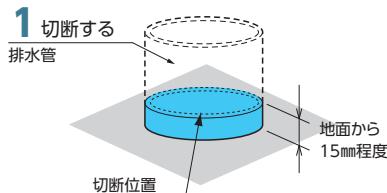
動画で見る

雨とい 施工動画集

<https://www2.panasonic.biz/ls/sumai/manual/movie/amatoi>

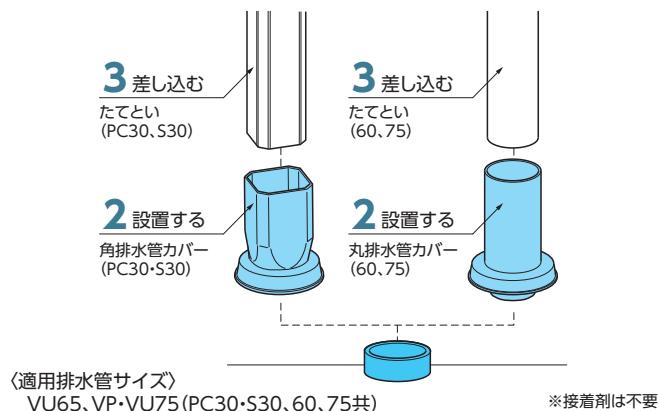


- 排水管は地面から15mm程度上で切断する。



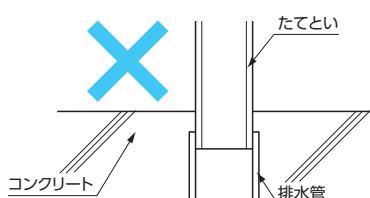
- 排水管に排水管カバーを設置する。

- 排水管カバーにたてといを差し込む。



お願い

- たてといと排水管を接着したり、コンクリートに埋め込み固定することはおやめください。

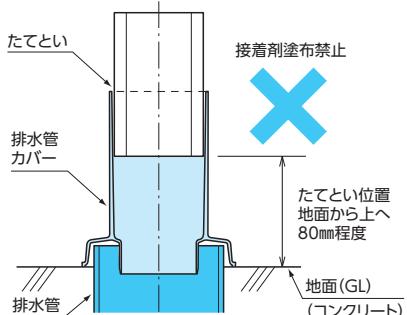


- たてといと地面との隙間は80mm程度あけてください。たてといの伸縮により排水管カバーが破損するおそれがあります。

ポイント

- 排水管カバーは伸縮を逃がす部材です。接着剤で固定すると伸縮を取ることができず破損につながります。

角排水管カバー(PC30・S30)・丸排水管カバー(60, 75)

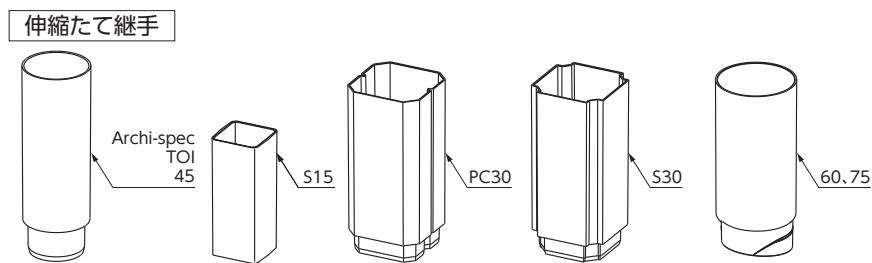


2 伸縮たて継手の取り付け



動画で見る
雨とい施工動画集
<https://www2.panasonic.biz/lssumai/manual/movie/amatoi>

- 伸縮たて継手をたてとい(2700mm)3本に1か所程度使用し、たてといの伸縮を吸収します。



*ホームセンター向けの「リフォームたて継手」は同一商品です。

■ご使用の目安

建物高さ H(m)	6m (2階建て)	9m (3階建て)*	12m (4階建て)*
組み合わせ	伸縮たて継手または排水管カバー	伸縮たて継手 + 排水管カバー	伸縮たて継手 + 伸縮たて継手 + 排水管カバー

*3階建て以上では、伸縮たて継手と排水管カバーの両方をご使用ください。

排水管カバーが使用できない場合は、伸縮たて継手を2か所ご使用ください。

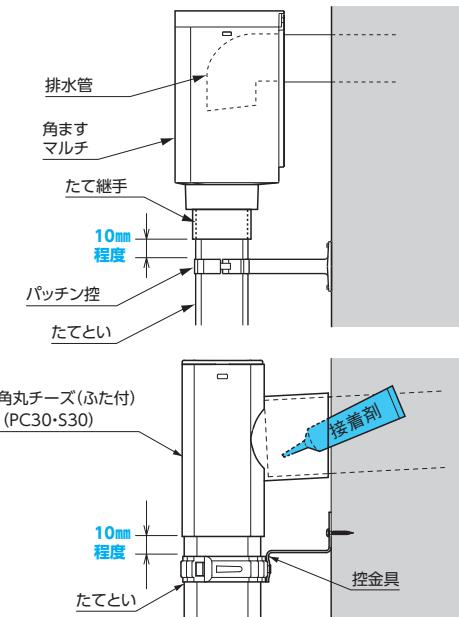
- 角ますマルチを壁に固定しない場合は、たてとい全体が下方向にすべり落ちるのを防止するため、**たて継手から10mm程度下に控金具を固定してください。**

- 角丸チーズから**10mm程度下に控金具を固定してください。**

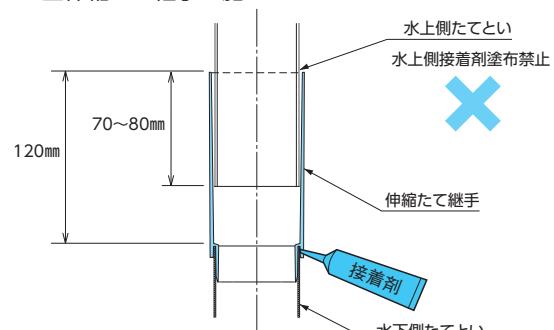
お願い

- 接着剤は必ず当社品をお使いください。
(水漏れ、外れ防止のため)
- 接着剤がたてといの外側にはみ出した場合はやわらかい布などですばやくふき取ってください。
(接着剤付着部分の変色防止のため)
- たてとい切削面のバリは取り除いてください。
(水漏れ防止のため)
- たてといの差し込み寸法を厳守してください。
(たてといの外れ防止のため)
- 水上側たてといと伸縮たて継手の水上側は接着剤の塗布は不要です。
(伸縮吸収のため)
- 垂直施工のみご使用いただけます。

- 伸縮たて継手にたてといを70~80mm程度差し込むようにして施工します。その際、水上側は接着剤を塗布しないようにしてください

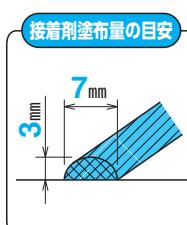
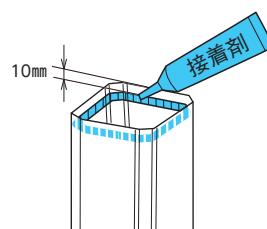


■伸縮たて継手の施工



お願い

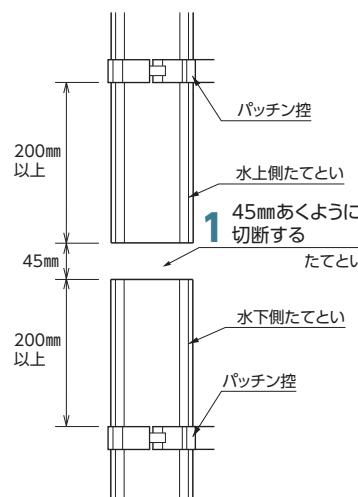
- 接着剤はたてとい端面から10mm程度の内面に右記量を目安に全周ひも状に切れ目なく塗布してください。低粘度およびはけ塗りタイプの接着剤は使用しないでください。(水漏れ防止のため)



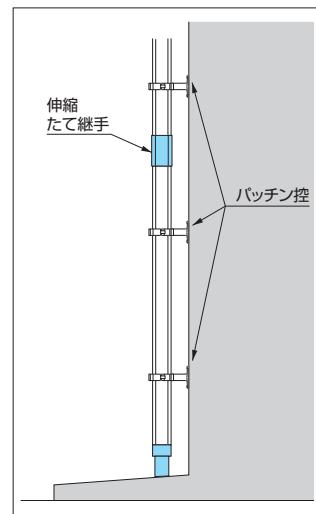
1 たてといを切断をする。

[排水管とたてといを接着固定する場合]

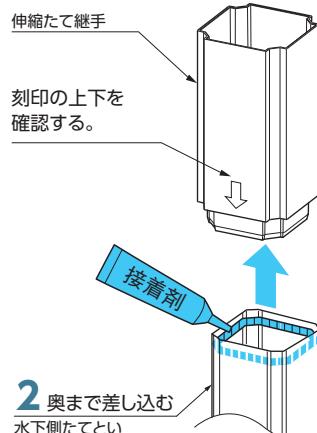
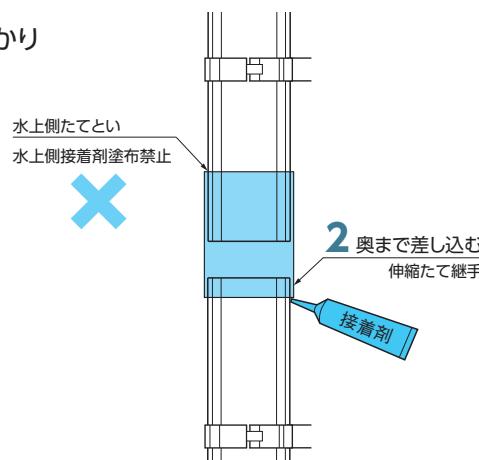
- 水上側たてといと水下側たてといの間を約45mmあくように、またパッキン控から各たてといの端部は200mm以上離れるように切断し、伸縮たて繼手を取り付ける。(たてとい伸縮吸収のため)



■納まり図

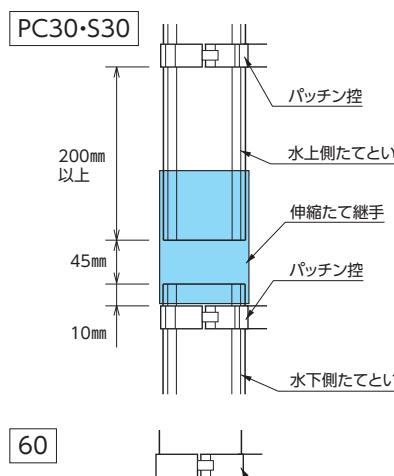
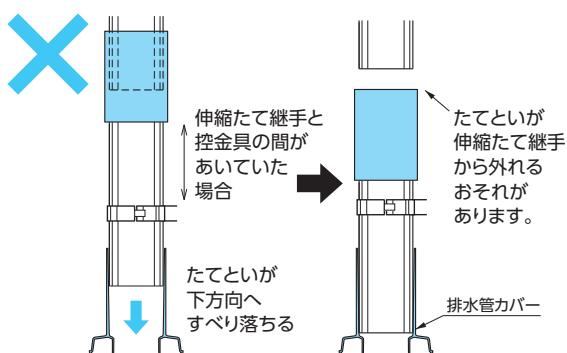


2 たてといを伸縮たて繼手の奥までしっかりと差し込む。



[排水管カバーと伸縮たて繼手の両方を使用する場合]

- 伸縮たて繼手の真下にパッキン控を固定する。
(伸縮たて繼手から水下側のたてといがすべり落ちるのを防止するため)



■納まり図

